

一般質問通告書

多可町議会議長 山口雄三様
 多可町議会議員 大山由郎様



平成25年5月27日

受領

午前
午後

8時30分

質問の項目及び要旨

答弁を求めるもの

生涯教育の充実強化をめざせ

町長 教育長

質問の内容

高齢化社会を迎え、各市町では生涯学習について積極的に取り組んでいる。

生涯学習は学習の制度を指すものではなく、人間らしく生きるための学習環境を作るためのもので、人びとが自由な意思で、いつでもどこでも学び、豊かな人生を充実するためのもの、また余暇を利用し、生きがいを感じず知識や教養を身につけるだけではなく、福祉、相互扶助、ボランティアなど社会全般にわたる学習である。

人間が一生の間に受ける教育には家庭教育、学校教育、社会教育等があり、これらをばらばらに行うことなく、人間の発達と成熟の段階に応じて統合し、組織化した教育を生涯教育といい、今日では社会教育の中にすっかり定着している。

特に近年、予想をはるかに超える科学の発展と技術革新によって、急速に変化する社会の中にあつて、わが国の経済・産業構造、生活環境が変わり、高齢化、保健衛生、社会福祉などの問題が提起され、学校教育だけでは追いつけなくなった。すでにわが国の平均寿命は八十歳以上の時代を迎え、豊かな生きがいのある人生を送るためには行政や学校だけに任せず、家庭が母体となって自ら学ぶ意欲を育てなければならない。そして、自分の必要によって生涯のいかなる段階においても「誰でも、何時でも、何処でも」教育を受けることができるものにしなければならない。

生涯教育の必要性についての背景は、

- ①機械文明の発展によって生産力が高まり、物質的に豊かさと、時間的余暇が生じ、人間の生き方について価値観を追求する傾向を強めてきたこと。
- ②一般的に医学の著しい進歩、保健思想の普及で寿命が延び、定年後も人生を豊かに過ごし生きがいを持つためには、新しい自己能力の開発あるいは教養や趣味を身につけることが必要となっている。
- ③経済・社会・科学の急激な変動に対し、これらを学ぶ機会がないと精神的に安定した生活を営むことが難しい。

このようなことから、生涯教育の必要性が強調され、学校以外の図書館・公民館・その他社会教育の場のみならず、様々な学習機会の場を提供されるようになった。これまでの地方団体による行政主導型の社会教育が拡大し、住民参加型の生涯学習を重視する傾向が

強まっている。いわゆる「住民参加型のまちづくり」である。行政と住民が一体となって、よりよいまちづくりを進めるため、住民同士の連帯と協調によって、相互理解を深め、そこから草の根、地方自治の芽が育つ機会としたいものである。

わが多可町では、多可町総合計画（主要施策） □生涯学習を推進する

- ①新しい時代に主体的に対応する創造力と行動力に満ちたひとづくりを進めるため、「いつでも」「どこでも」「だれでも」「なんでも」自由に学び、表現し、その成果を活かすことができる生涯学習推進体制の整備を図ります。
- ②生涯学習推進本部や生涯学習推進協議会などの推進体制の効果的な運用と連携に努めます。
- ③「生活創造大学」や「生涯大学」、公民館などでの各種講座など、生涯学習の機会の創出に努めます。
- ④障害者、高齢者等の視点にたった利用しやすい、活動しやすい施設改修に努めます。
- ⑤各施設の特色や資源を活かした事業や施設間の連携等による魅力あるプログラム開発を行うとともに、施設連携による事業づくりを進めます。
- ⑥各種団体・サークル等の活動状況を把握するとともに、相互の交流やリーダー研修、活動の発表の場の提供や活動紹介など、地域における団体・サークル活動の活性化に努めます。
- ⑦社会教育施設においては、より広範な参加を促進するため、事業の充実に努め、資料や情報の適切な収集・展示・保存を行うとともに、町広報やホームページなどを通じて魅力的な情報提供を行います。
- ⑧各区の歴史・観光案内ボランティアの活動を支援していくとともに、その育成・継承に努めます。
- ⑨住民の学習やイベントを支えるボランティアを育成し、多様な学習の機会を提供します。

など9項目を目標に掲げられていますが、今日までの経過と効果はどうか。そして今後に向けての取り組みについて問う。

の所見を伺います。